学校番号	T0110

平成 31 年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	生基 314 「高校生物基礎　新訂版」 実教出版						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・学習を通じて科学的な自然観や倫理観を養い、科学的に探究する能力と態度を育てるために、毎時間の授業で、常に目的意識を持って受けることが望ましい。
・授業の中だけでなく、日常生活の中の様々な場面で、知識を活用する力や新しい見方を得ることにより、豊かな考え方、感じ方を身に付ける。

2　学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の多様性と共通性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	授業に向かう姿勢 内容に関する関心 提出物の提出状況 自己評価	定期考査 小テスト 提出物	課題解決学習の発表 グループワークの取り組み 学習の取り組みをまとめたレポート 提出物	実験器具などの取り扱いの状況 グループワークの取り組み 学習の取り組みをまとめたレポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					評価方法
			a	b	c	d		
前期	生物の特徴	・生物の共通性 ・細胞構造と働き ・代謝	○ ○	○	○	○ ○	a:生物の多様性と共通性について、理解しようとする。細胞がすべての生物で共通であると理解しようとする。 b: 細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。 c: 試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 d: 生物の多様性と共通性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。	中間考査 ファイル 提出物
	遺伝子とその働き	・遺伝情報とDNA ・DNAの構造 ・遺伝情報の分配	○ ○	○	○	○ ○	a: DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。 b: DNAの性質や構造を科学的に考察することができる。 c: 生物の組織からDNAを抽出する技能を習得している。 d: DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。	期末考査 ファイル 提出物
後期	生物の体内環境とその維持	・体内環境と恒常性 ・肝臓 ・腎臓	○ ○	○ ○	○	○	a:外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。 b: 体液の塩類濃度調節や血糖量、体温の調節が、ホルモンや自律神経により調節されていることを考察できる。 c: 複数の実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができる。 d: 腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。	中間考査 ファイル 提出物
	生物の体内環境とその維持	・自律神経とホルモンによる調節 ・生体防御と免疫	○ ○	○	○	○	a: ホルモンの分泌により血糖量が保たれており、ホルモンの分泌不足により発症する疾患について調べようとする。 b: 体液の塩類濃度調節や血糖量、体温の調節が、ホルモンや自律神経により調節されていることを考察できる。 c: 複数の実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができる。 d: ホルモンの分泌により血糖量が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足により発症する疾患についての知識を得ている。	中間考査 ファイル 提出物

	生物の多様性と生態系	・植生と遷移 ・生態系のバランスと保全	○	○	○	○	a: 陸上には様々な植生がみられ、それらは不変ではなく、長期的には移り変わっていくことを理解しようとする。 b: 植生の成り立ちが、林内の光環境や植物の光に対する特性、土壌の発達段階に影響を受けていることを考察することができる。 c: インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得している。 d: 陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。	期末考査 ファイル 提出物

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c: 観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。